

尼崎市総合計画審議会 第3回総会 議事録

日時	令和3年10月1日(金) 18:30~
開催手法	WEB会議
出席委員	青田委員、梅谷委員、加藤委員、川中委員、瀧川委員、花田委員、久委員、堀田委員、室崎委員、小坂委員、小森委員、堂園委員、松原委員、村田委員、中西委員、仁保委員、畠中委員、原田委員、古川委員
欠席委員	稲垣委員、武本委員、八木委員、川島委員、勇委員
事務局	塚本総合政策局長、中川政策部長、田中総合計画担当課長、総合計画担当職員

1. 開会

●資料の確認

●議事録署名委員の指名

瀧川委員、花田委員

2. 総合計画等協議会の開催報告について

(事務局)

<資料説明>

(会長)

この総合計画等協議会の報告についてご質問等何かございますか。

(委員)

第1回総合計画等協議会とはどのようなものですか。

(事務局)

総合計画審議会に今年8月までは市議会議員が参画されていましたが、全庁的な審議会の構成の見直しにより、総合計画審議会から議員が抜けられました。その関係で総合計画の検討にあたって、この審議会とは別に市議会ともしっかりと協議をして計画策定を進めていこうということで市議会に「総合計画等協議会」を設置して頂きました。そこで検討状況の報告及び意見交換を行い、そこで頂いた意見を審議会にご報告し、計画の中に反映させるかどうかをご議論いただくという形で進めているところです。

(委員)

市民委員を増やすようにという意見は良い意見だなと思います。

3. 第6次尼崎市総合計画 まちづくり基本計画の検討状況について

(会長)

これまで分科会、専門部会で各論の全体バランスを整理しながら「主要取組項目」「まちづ

くりの総合指標」について議論してきましたが、まず事務局からこの状況についてご紹介いただいたうえで専門部会長からコメント頂ければと思います。

(事務局)

<資料説明>

(会長)

続きまして専門部会長からコメントをお願い致します。

(委員)

補足的なお話しをさせていただきます。本当は本日総会で皆様にもう少し基本計画の内容がきちんとお示しをできると良かったんですが、専門部会委員と事務局の間で何度もやり取りをしており、間に合っていないところもありますので、ご容赦頂きたいと思います。まだ変更する可能性がありますので、みなさんからのご指摘も踏まえて検討ができるのではないかなと思っております。それと「施策の目標」を修正したいという部分が、個人的にあります。ここは分野別のマスタープランから引用している部分でもありますので、ここをあまり触ると整合がとれなくなる可能性があるところを私からも念を押しておきたいと思っています。また、施策の展開方向は、施策の方向性が見えないといけません。コンパクトに短く表現をすることになっており、1行2行の言葉ではなかなか方向性が見えづらいと思っています。そこを補足する何かが必要ではないかということで、私のほうから「目標の下にあるいは展開方向の上になんかこのような方向性でこの施策は考えていますよ」ということを付け加えたらどうかと事務局に投げかけています。その時にやはり私は「未来の年表」をしっかりと職員の方々にも意識して頂いて、基本計画は今後の5年間を考えていくわけですが、やはり2040年ぐらいの長さを見据えて、その1歩となる様な5年にするというのも必要なので、そういう意味で「未来の年表」は各施策の展開方向と密接に関係しているというように捉えて頂ければと思います。それと「行政運営の視点」は、まだ骨子となっておりますので、これはこれから時間をかけて事務局につめて頂いて、専門部会、総会で議論していきたいなと思っています。最後に「主要取組項目」は各施策がバラバラにならないような大きな柱ですが、事務局からの提案では4つの柱となっています。しかし、前回の専門部会において、「安全・安心」というもう一つの柱が必要ではないかということで、5つの柱で主要取組項目のパッケージ化を考えて頂いています。そういう意味では「安全・安心」を含めた5つの柱でパッケージ化していいのかという観点も含めてご意見を頂ければありがたいと思っています。

(会長)

ありがとうございました。本日の資料の【参考資料②】第6次尼崎市総合計画(イメージ)は、あくまでもイメージの共有のためであり、各論はまだまだブラッシュアップしていくという前提でお示ししておりますので、本日は言葉の使い方などではなく、項目として必要な項目や、ここここをくっつけてはどうか、あるいは全体のバランスについてなどご意見いただければと思います。「主要取組項目」について専門部会長からもお話しがありましたが、この点もご意見を頂ければと思います。そうしましたら、まず市民委員の皆さんからご意見賜れればと思いますが、いかがでしょうか。

(委員)

「主要取組項目」の中に、年代を確定できない未来、災害であったりコロナとか新しい感染症であったり、そういうことに対する取組というのが「主要取組項目」の中では見つけにくいと思ひまして、先ほど会長がおっしゃったように「安全・安心」を入れたほうが未来的な安心、市民も安心なのかなと感じました。

(事務局)

「安全・安心」は庁内でも一つの視点として検討しているところです。しかしながら、「主要取組項目」の考え方の一つとして、進捗管理にも力点を置く必要があると思っており、そのためには、「安全・安心」の視点で取組項目の具体化がまずは必要であると考えております。次回の総会までにそのあたりの考え方も含めてお示しさせていただきたいと思ひます。

(委員)

まず、【資料第3号】分科会意見への対応表（第1～第3分科会）の「分科会意見への対応表」で第2分科会の「No13 施策8健康支援」のところで、代表指標が一つしかないという指摘に対して、これ以外にはないと記載がありますが、単純に各種検診の受診率はどうでしょうか。一番自分の健康を意識するのは自分自身であり、その意識の高まりが健康に影響すると思ひるので、健康意識の高さの指標としてはやはり受診率が適切ではないかと思ひます。なぜ受診率がないのかが単純な疑問です。2つ目は【資料第5号】『行政運営の視点』の骨子について、内容というよりは書き方ですが、「WLBの推進」「本市のDXの推進」が何を言っているのかわかりません。専門家や行政の職員は研修などで基本的な知識として持っているかもしれませんが、市民や若い世代が見た時に、横文字とか専門的な言葉を使いすぎると説明が長くなることは資料にとってマイナスなので、そのバランスはいると思ひるので配慮して頂ければと思ひます。最後に【参考資料④】「ずっと住み続けたい」指標についての懸念事項として『ずっと』の回答を引き出すことが困難」という点で、この辺りの世代が周りに多いので、実感としてはやはり難しいと感じます。理由としては小さい子どもがいると、今の尼崎の生活に不満が無くても、家庭環境の変化などがどうしてもイレギュラーで有り得るので「ずっと」というイメージはしにくいと思ひます。「愛着」や「満足度」とはずれるところはあるので、この表現でこの世代が「ずっと」を選択するのは難しいと思ひます。

(事務局)

「受診率の向上」についてご提案頂きましたが、現在「健康寿命の延伸」という大きな概念として「代表指標」を定めております。「受診率の向上」は受診をした方が健康行動に移し、その結果、受診率が上がっていくというような組み立てにしているところもあり、「健康寿命の延伸」と「受診率の向上」が同じレベルとして並び立つことに対して疑問が残ると所管課としての意見があります。また、「受診率の向上」も大事な項目ですが、あくまでこれは国民健康保険に加入されている方のみとなっております。社会保険に加入されている方や先ほど委員がおっしゃって頂いた会社で受診されている方は直ちに繋がらないというところで、「健康寿命の延伸」をテーマに掲げている中で、不足する項目を指標として定めていくことについて検討は継続していますが、検討した結果並び立つものが現段階では思ひつかないという回答になっているというところでございます。

(会長)

このあたりは委員のご指摘は妥当で説得力のあるものだと思うのでご検討いただければと思います。

(委員)

この部分も「健康意識に関するアンケート」で意識をお尋ねする方法もあるかと思います。「検診は受けていますか」、さらに「どういう種類の検診を受けていますか」、「健康につながるような行動を具体的にしていますか」のような項目を入れてみるとか。やはり私は意識を持つかどうかは、自分の体に興味を持つという部分でまず検診が第1歩だと思います。献血をすると血液検査の結果が送られてきて、自分の体に興味を持つ第1歩になると思います。色んな判断があると思うのでお任せしますが、統一的なところが難しいのであれば、アンケートを単純にとっていただいたらいいのかなという提案です。

(会長)

再度事務局でもご検討頂ければと思います。WLB、DXは確かに一般市民の皆さんがこれを見て何のことやという感覚が市民感覚だと思います。事務局どうでしょうか。

(事務局)

専門用語を使う形になっており、これは完全に事務局のミスです。失礼いたしました。また、先ほどの指標の件で補足をさせていただきます。「健康支援」で、代表指標として「健康寿命」を挙げていますが、「健康支援」は分野別計画を基に進めていますが、その計画での最大目標を「健康寿命を延ばす」としています。ただ、それだけの指標ではこの施策は測れないので、それを補完する指標として、委員がおっしゃっていただいた「受診率」を含め様々な指標を施策評価で設定していくこととしております。他の施策もそうですが、大目標になる様な、代表指標として何を置くかということを庁内で議論をしております、そういう意味では「健康支援」のところは大目標として「健康寿命」を伸ばしていこうというところでその指標を一つ置いているところで他の指標が全くないということではございません。

また、総合指標の「ずっと住みたい」という項目ですが、事務局としても迷っており、家庭環境など状況の変化を考えると、25歳から34歳というこのあたりの「ずっと住みたい」という意向を高めることが目標ですがなかなか難しいと感じています。このアンケートは15歳以上を対象にしており、それよりも若い世代、高校生の方に「このまま尼崎にずっと住みたいか」と聞いたとしても、「このままずっと住みたい」という回答を引き出すことは難しいと考えております。そう考えますと、代替案としてご提示させていただいている「住んで良かった」というように瞬間的に今住んでいることが良いのかどうかを聞くほうが我々としても市民の実感を捉えやすいのかなと思っています。もう少し検討は必要ですが、「住んで良かった」という項目にシフトして検討を進めていこうと思っています。

(委員)

「住んで良かった」がベストなのかはこれから色々ご検討いただくとして、やはり実感以外の要素が「これからどれくらい住みたいか」にすごく絡んでくるので、難しい指標だったのかなと思います。

(会長)

私も専門部会で直接発言しましたが、行政がこのようなアンケートをすると「ずっとそこにいてくれ」という暗黙の固定観念があります。これだけ流動性の高い社会で「あなた死ぬまでここにいてほしい」ということ自体あまり意味のある質問だと思いません。むしろ改善案で提示しておられる「住んで良かった」という質問の方がもっと大事だと思います。移動せざるを得ない方もおられるだろうし、転勤族の方もたくさんおられるなかで、そういう方に率直なところを聞くという点では、ずっとそこにいてくれというのは、質問する側が歪んでいるなと個人的に思います。

(委員)

一市民から意見を言わせていただくと、私は仕事で映像制作をしており、見て頂く方にどのように受け取ってもらえるか、どのように伝えるかをまず初めに考えながら映像を作っています。必ずゴールを決めてそれに沿った内容の映像を作るようにしています。そういう意味で、この計画は完成したら全市民に行き渡るのでしょうか。

(事務局)

総合計画は他の計画と同様、販売用の資料となるため、全市民への配付は考えておりません。しかし、計画本体とは別に計画の内容をもっとわかりやすく市民の皆様にお伝えする総合計画の市民版のようなものを周知ツールとして来年度に作る予定をしております。尼崎に転入された方を中心に様々な方に配ろうという考えで作成する予定です。

(委員)

この分厚さを読んでもらえるのかは少し疑問です。【参考資料】で頂いている資料は総合計画の中に反映される資料という理解でよろしいでしょうか。

(事務局)

そのまま反映されるわけではないですが、内容として溶け込んでいくイメージです。計画のイメージは後半の基本計画が分厚くなっており、この基本計画は職員が活用することをメインに作成しているので、市民の方にとっては見づらい部分だと思っています。前半のまちづくり構想はページ数をかなり絞っており、例えば「目指す将来像」など市民の皆さんと共感・共有していきたい部分は表に打ち出していきたいと思っておるところであります。

(委員)

市民に配られる情報がもっと精査されたものであれば、興味がある人は読んでいただけのかなという印象でした。先ほどから話題に挙がっている「ずっと住み続けたい」というところと言うと、僕の場合もそうですが仕事柄で尼崎に住んでいるという方も多いと思うので、なかなか難しいところだろうなと感じました。総合計画を見たことがない市民がたくさんいると思うので、自分が住んでいるまちの方向性を確認する参考として、一度読んでみるのは面白い機会かなと思いました。これを踏まえた広報としてイベントがたくさんあれば面白いと感じました。

(会長)

非常に重要なことをご指摘いただきましたが、総合計画は行政が一生懸命時間をかけて、我々も集められて作っており、実際に成果が市民の皆さんにきちっと情報共有されているかという私の今までの経験からいうと、これは尼崎だけではなくて、一般論として非常に難しい弱点と言えらると思います。今委員からご指摘いただいたことをどのように乗り越えていけるのかは、尼崎の総合計画の本当に重要な最終ハードルといってもいいかもしれません。そのあたりは事務局の皆さんに頑張ってください、我々もアイデアがあったらどんどん言うていく必要があるし、そのようにお願いしたいと思います。

(委員)

「主要取組項目」のところだけつかまえて市民にどう分かってもらえるか。「ありたいまち」に対する具体的な方法論が4つで、そこに「安全・安心」を加えた5本の柱ができたということですごく良いと思っておりました。ただ、「子ども・教育」と「学び・つながり・ささえあい」の部分がとても重要なところで、「学び」は、つながりもできるし、ささえあいもできるし、子どもにもつながる、学びイコール教育ですし、それによって人が集まってくると魅力が向上して、そこで「脱炭素」とか「経済指標」も学んで、それが広がっていきます。今、サマーセミナーに関わらせて頂いていますが、尼崎の学びを中心に、そこでつながりができて関係が広がっていきます。私は伊丹市民ですが尼崎に住みたいと思っていますが、個人的な事情でできないわけですが、交流人口ということで考えれば、そういう人たちも増えていると思いますのでこれはすごく良くて、この状況を次にどう活かしていくのかをお聞きしたいです。

(会長)

ありがとうございます。これは事務局の方からお答えいただこうと思います。

(事務局)

これから「主要取組項目」の視点として4つ、専門部会でご意見いただいている「安全・安心」を含めて5つの視点がありますが、基本計画の計画期間である5年で何をどこまで進めるのかを庁内で議論していきたいと思っています。計画自体が市議会で議決を頂く必要がありますので、我々としてはあまり細かい部分まで書くと議決に差し障るということもございまして、どこまで書けるのかは庁内で議論していくこととなりますが、この5年間に重点的に取り組んでいくことがわかりやすく表現できればと思っています。

(委員)

「教育」と「学び」のところをいくと、学校教育と社会教育との縦割りがどう一緒になるのか、どうみんなに広げていくのかが気になっています。私は今、あまがさき環境オープンカレッジというところで活動していますが、そのあたりが一体化するとすごく面白いことになるのではないかなと個人的には思っております。

(委員)

私の方から2点聞かせて頂きたいことがあります。1つは【資料第4号】に書かれている

「主要取組項目」の中の3つ目に「魅力向上」が書かれていますが、この中に「質の高い市民サービスの提供」を入れてみてはどうかと思っています。というのも【資料第5号】で書かれています「行政運営の視点の骨子」のなかで、右下の「3-2 デジタル化を通じた持続可能な市民サービス及び最適な業務執行体制の確立」がありますが、AI等を活用したデジタル化で考えますと、質の高い市民サービスを提供しようとするとその反面、行政職員にしわ寄せがきて、今まで以上に労働時間が増加してしまうという話もあります。実現できるかどうかは別として、AIを活用して計算や探し物はAIに任せて、行政職員は考えるところに重点をおくとそういうところが「3-1 職員の資質向上と課題に即した組織体制の整備」(①職員の資質向上)(②ワークライフバランスの推進)につながるかと思いました。次に2点目、「未来の年表」で本市の年表のところで、先月9月4日にニュースでありましたが、阪急神戸線武庫川の鉄橋に新駅をつくるという話が進展したということで、新駅ができるというのはまちづくりにおいて、ビックイベントだと思うので、記載してもいいのではないかと思います。

(事務局)

「主要取組項目」がどれだけ進捗があったかを測っていきたいと思っており、全ての項目で「市民サービスの向上」というのは狙っていきますが、それを具体的なところに落とし込んだときに、どこに入るかという視点を踏まえつつ、それぞれの項目を考えていきたいと思っています。また、デジタルトランスフォーメーションの関係でも、行政の効率化は「市民サービスの向上」につなげていく部分だと思っていますので、前回の専門部会でも、デジタルトランスフォーメーションの記載がなかなかドラスティックになっていないというご指摘もいただいており、そういう意味ではその部分について引き続きブラッシュアップできるような中身を庁内で検討していきます。次回でお示しができたらと思っています。

(会長)

デジタルトランスフォーメーションという言葉自体もわかりにくく、もう少し易しい言い方が良いのかもしれない。

(事務局)

新駅は私が担当しておりますので私からご説明させていただきます。新駅の件はご紹介いただいた通り、先月公表させて頂きました。まず1点目は、未来の年表に盛り込んではどうかというご提案を頂いておりますが、現時点でスケジュールは未定という形で公表させて頂いております。新駅は、尼崎市と西宮市の境界上となる武庫川の上に設置をするという考え方でございまして、この整備にあたりましては尼崎市が単独で整備できるわけではなく、西宮市、阪急電鉄と歩調を合わせて行う必要があります、お互いのスケジュールのすり合わせがこれからということですので、総合計画のなかにスケジュールを明示していくのは現時点では困難というのが実態です。ただ今後のまちづくりにあたっては、ご指摘いただいた「魅力向上」のところに「エリアマネジメント」という表現がありますが、尼崎市においては先ほどご紹介した通り、例えば小田南公園という阪神大物駅の駅前に大きな公園がありますが、そこに阪神タイガースのファーム、2軍球場が設置されることに伴い、公園やその周辺を一体的に整備していこうという考え方や、塚口サンサタウンの3番館、阪急塚口駅の南側が今建て替えに入っておりますが、それに伴って阪急塚口駅の南側の駅前広場をリニューアルしていこ

うとかまちのハード的な部分についても これまで財政難でなかなか取り組めなかった部分も含めて、この次の5年10年にあたっては、エリアの特徴とか、それぞれのタイミングも捉えて整備をしていこうということも考えています。そういった点ではエリアマネジメントという考えのなかでは、新駅の構想というのは当然含まれてくることになるかなと思っていますので、大きな視点で具体的には書けない段階ではありますが、大きなまちの整備という視点ではそのあたりも踏まえて考えていきたいと思っています。

(委員)

「施策12 環境保全・創造」都市農業の存続のところで施策12に「(3)環境保全③都市農業を存続させるため市内農業者のニーズに応じた補助を行うなど営農の支援」とあります。最近の情報ですが、園田地区で園北ファームというものをされていて、都市農地の存続のために市民農園ではなく、色々な方が関わる農地をされています。園北ファームだけでなく、「自然と文化の森」など色々な方が都市農地を残すための活動をされていて、たぶん尼芋とかで南部の地域もされていると思いますが、これからの都市農地を存続させていくために、その可能性はすごく大きいと思います。若年性アルツハイマーの方が関わっていたり、障害者の団体が関わっていたり、本当に様々な方が関わっていて、農地も増やしていく状況で、今額田の方にも借りて、今度JRの特例子会社の方にも借りてそこで農地をするという風に聞いています。そういう今からの広がりを考えて、キーワードのところに「コミュニティファーム」というのか、お商売の農地というだけでなく市民が参画する農地で都市農業を存続させるという可能性についても言及しておいた方が良いのではないかと思います。

(事務局)

本市は「都市農業の保全」に取り組んでおり、「認定農業者制度」の創設なども行っています。そういった部分では委員のご発言の通り取組自体は進めていくことになるかと思っています。あと、キーワードの部分ですが、キーワードの取扱い自体全体的に統一を図ろうと思っており、その言葉自体を入れていくのかはキーワードの使い方のところから整理させて頂き、考えていきたいと思っております。少なからず「都市農業の保全」という方向性自体は取組として重要だと認識しているので、記載はしていきたいと思っております。

(委員)

どういう形でもいいのですが、そういう活動をしている方が自分たちの励みになる様に、これから先を見据えて広げていこうという想いになれる文言が入っていればいいと思います。

(委員)

1つは全体の計画の案ですが、施策4はもともと「地域福祉・生活支援」となっていたのですが、「生活支援」がはずれました。「生活支援」は、ほとんどが生活保護の話になっており、生活保護をこの総合計画に入れるかどうかという問題があります。総合計画でずっと尼崎のいいところや、オプティミズムなお話をしてきましたが、以前も第2分科会で他の委員から発言がありまして、生活保護や生活困窮者自立支援、あるいは困窮の支援など、生活困窮者への支援というのが尼崎の特徴だと思います。それが今回の計画では無いというのはどうしたらいいのかなという思いがあります。それから3つ目は指標の問題ですが、例えば指標で言

いますと施策4の指標に「Ⅱしごと・くらしサポートセンターにおける相談者一人当たりの継続相談支援回数」とありますが、これが多くなればいいのかなど問題があると感じています。また、施策5「子ども・子育て支援」、施策6「障害者支援」、施策7「高齢者支援」もそうですけども全部いくつか問題がありまして、とりわけ市民の主観的な思いを入れるのか、より客観的なものをいれるのかというので、私としては両方あったらいいと思いますが、とにかく調整が必要だと思っています。それから、市民が尼崎を出たいというときに、市民の公共心の不足に対する問題があると思います。これだけ施策を提供しても、やはり出ていくのかというときに、市民の私たちの市だという公共心の無関心あるいは私物化する気持ちとかすごく難しいなと思います。公というものをどのように理解していただくかということが大切だと思います。とりわけ今、市民への援助と生涯学習を一体化してやっていこうというのが今の尼崎の市政ですが、そういう意味で公ということの存在を理解していただくことの難しさを改めて感じております。それと1番最初に申し上げた生活困窮の取組ですね。私は社会福祉協議会にありますが、多くの人たちに貸付けをしているわけですから、生活困窮者への取組は今後どうしてかという根源的な問題を今回の計画では難しいかもしれませんが、ぜひやっていきたいなと思っています。

(事務局)

生活困窮者のところで、分科会でも委員からご指摘いただいた部分でございますが、尼崎の特性として低所得者層の割合が多いというところは認識しております。そういったなかで生活困窮者は施策4のキーワードで「(2)包括的・総合的な支援の推進」というところで生活困窮等を入れさせていただいています。当然ながらこの中で生活困窮者への対応や支援も取り組んでいきますが、委員のご指摘を踏まえまると、書きぶりが少し足りていないと思いますので、施策4に関わらず各論についてはもう一段ブラッシュアップして次回の総会ではお示しをさせて頂きたいと思っています。また、指標については今回の総会の中でも、この指標は、本当にこれでいいのかというご指摘があれば引き続き検討していきたいと思っています。指標の捉え方としては、「客観指標」と「実感指標」の両方があったほうがよいというご指摘ですが、事務局としてもそれが1番理想形かなと思います。先ほどの健康支援のところで大目標というのが健康寿命を延ばしていくというような「客観指標」ではかれるものもありますので、そのあたりについては施策それぞれの目標を見ながら、何の指標が望ましいのかということをもう一度考えてきたいと思っています。

(会長)

委員が事例として挙げられた「Ⅱしごとくらしサポートセンターにおける相談者一人当たりの継続相談支援回数」というのはどういう意図でしょうか。

(事務局)

この部分で言いますと「しごとくらしサポートセンターにおける相談者一人当たりの継続相談支援」ということで支援がしっかりできているかを測った部分ですが、確かに数字が上がっていればいいのか、相談が無ければ困難自体が起こってないという捉え方もできますので、そういう意味では置き方としてももう少し検討が必要だと思っています。

さらに、委員のご指摘の通り、行政が行うことについて関心を持っていただくというのは

非常に難しく現在、本市では、「学び」を活動につなげていくということで市と一緒に取組を進めていくことを楽しんでいただけるような基盤や土台づくりに力を入れているところであり、その取組が広がっていけば、自分たちのまちを良くしていくという自治条例の理念にもつながりますし、そういう機運を醸成していくことが重要だと思っておりますが、それを一筋縄で一足飛びに作ることは難しく、地道に着実に今の取組を進めていく必要があると思っております。

(会長)

アンケートによりマナーが悪いとかいろんな理由がありそうだということが抽出されていますが、尼崎では時系列でそういうデータが取れており、例えばこれを他の都市と比較するというのは可能なのでしょうか。

(事務局)

他都市の方が自分たちのまちにどのような課題を持っているかを聞くことは難しいところですが、他都市の公表されているアンケート結果から引っ張ってくるということは可能かと思いますが、我々の方で実態を調べるというのはなかなか難しいかと思えます。

(委員)

尼崎は公園が多く、その公園に結構弁当箱や酒瓶などのゴミが散乱していて、特に週末はものすごく汚いです。市民はお客様ではなくて、市民も自分たちのまちを綺麗にしていくんだという気持ちと一緒に持っていただくようにしないと、せっかくの尼崎の宝である公共財がダメになると思います。そこらへんは、市民にちゃんと働きかけないといけないと思いますし、行政が全部尻拭いをするというようなことでは、これからお金ももたないと思いますし、なにより私たちの市を大事にしていくという精神をみんなに持っていただくような方向にもっていかないといけないと思います。

(委員)

大変見やすくまとめて頂いているという感想があります。特に【参考資料②】は読む方が分かっていたきたいという気持ちがすごく伝わってきます。示し方が工夫されていていいなと思いました。「未来の年表」で、以前に分科会でもお話しした「生物多様性」のところで、2030年までに30%生物多様性を保全する地域を作ろうということですが、その中で生物多様性を保全するとどうしても保護区というのが頭に浮かびますがそれだけではなく、OECMという、例えば鎮守の森など生物多様性の保護を目的とはしていませんが、結果的に生物がいるような緑地でもカウントしていくという流れがあります。そのあたりを例えば施策13「都市機能・住環境」に入れてはどうかと思いました。現在、私は大阪府の生物多様性戦略の策定に関係しており、兵庫県について調べてみると「生物多様性兵庫戦略」というものが平成31年に改訂されており、取組事例として「尼崎21世紀の森づくり」が紹介されています。こういうようなことがあるので、ぜひ計画の中にその視点を入れて頂けないかなと思います。

(委員)

委員のお話を緑地計画的に考えると、これまでは緑地の面積の量で調べていましたが、も

つと質の面で捉えながら緑地計画を進めていくということで、特に「生物の多様性」という観点から緑地整備をさらに進めていくという部分が出てくればよいのではないのでしょうか。例えば富松神社とか貴船神社のような由緒ある鎮守の森なんかもありますし、それから南部の「21世紀の森」とか、あるいはさきほど委員もおっしゃって頂いた園田地区の農地、あるいは猪名川の自然公園など様々なものが尼崎はあるわけですから、そういう意味ではうまく取り入れられるんじゃないかなということで、緑地計画的な観点のなかで一つの言葉で表せるんじゃないかなと思いました。

(委員)

大阪府の中で、国の委員会に関わっていらっしゃる先生にお聞きしましたが、農地やため池はこれにカウントできますかと質問したところ、現在、検討中だということです。先ほどご意見ありましたが、「農地の保全」もこれに絡めて進めていけるかもしれないと思うので、総合計画にもそのようなことを入れておいた方がよいのではないかなと思いました。

(委員)

全般的にはこれまでもお話しが出たところがブラッシュアップされているという感想です。1つはやっぱり何度もお話しが出ている「ずっと住みたい」指標の令和2年度の結果を見て「③市外に移りたい」を選ばれた方が、25歳-34歳で言うと7、8人に1人の方が「③市外に移りたい」を選ばれており、事実としてそういう世代が市外に移られるのが多いということは知っておりましたが、こういう数字を見ると衝撃的なものがありました。社会に出て子育てを始めているような世代である25歳-34歳のうち、7、8人のうちの1人が何らかの不満を持って「③市外に移りたい」を選ばれているということ、他の市でこういう調査をされているかは存じませんが、指標をどうとって、どう数字を見ていくかが難しく「住んで良かった人の割合」に変えて指標をとるということも1つの考え方としてあると思います。ここの改善が尼崎市にとって最大の課題だと思っており、追える指標をきちんと作って年度ごとに改善を図ることが必要なのかなと思いました。

(委員)

「ずっと住みたい」指標ということで、高齢の方は継続してずっと尼崎に住みたいという意向が強いということですが、それはそうだと思います。平地で交通の便の良さ、医療機関や介護施設が多く、今後もこういう傾向が強くなると思いました。1点気になったのが「主要取組項目」と「総合指標」の市外の転出意向の理由のところで、「治安、マナーが悪い」が32.2%と非常に高く、施策9「生活安全」のなかの防犯や交通安全、ルール遵守、マナー向上、自転車のまちづくりの推進がありますが、1番転出の理由の大きい「治安・マナー」に対して项目的に少ないというような印象を受けましたので、何らかの項目を書き込めないのかと思いました。私はもともと尼崎市民で、西宮市から尼崎市に戻ってきましたが、帰ってきて思ったのが、タバコのポイ捨てが非常に多く、ペットを飼っている方のマナーも悪いイメージがあります。転出意向の理由で一番高い「治安、マナー」は、計画の中にもう少し書き加える必要があるのではないかというイメージを持ちました。

(委員)

段々仕上がってくるとそれぞれのテーマに対する書き込みが綺麗に仕上がっていくのと同時に尼崎の特色である経済や製造業との共生の部分、リレーションが少し見えにくくなっているなと思います。あとから入って来られた住民の方がここは準工業地帯で住みにくく、工場が追い出されるような構図がここ何十年もあるところで、共生のことで、若年層の流出というのは「教育」や様々なことがあるなかで、新しい若い夫婦が入ってくるがお子さんができて就学年齢に近くなると出ていってしまい、さらにそれよりも多くの住みやすいまちですから、若い年齢層の方が入ってくるというので人数は増えていますが、就学年齢層が薄くなっています。ロータリークラブの活動の中で今1つのテーマとして「わがまち尼崎を好きになれる」ような、例えば尼崎城とか伝記的な話だと戸田氏鉄さんの話とか、子どもたちにわがまちのヒーローみたいな感じで提供できるコンテンツって結構あるのではないかとということで、教育委員会にもご相談しながら、副読本とかデジタルブックのコンテンツのような物が供給できないかなという話があって、うまくそこで若年層流出が収まり、共生のところとうまくいけば、尼崎で育った子が尼崎で働くという流れになると思います。尼崎は、大きな企業も小さな企業も含めて、研究施設が結構たくさんあるということをよく聞きます。そんな中、尼崎で育って尼崎で教育を受けて尼崎で働く人たち。うまくいけば尼崎で研究がされて新しい産業とかっていう、理想論ですがそんなイメージがうまくリレーションできるような想像力が働くような表現も入れてもらえたら嬉しいなと思います。

(委員)

「主要取組項目」と「総合指標」のところで、「総合指標」は引き続き2項目の設定を続けて、新しい指標として「あまがさきに住み続けたいと感じる人の割合」を入れるというところの部分と、「主要取組項目」で「安全・安心」も追加されるということで5つの視点がありますが、その中で「脱炭素・経済循環」がありますが、ここと「総合指標」が絡まないという印象を受けました。「計画期間の背景」のところに「脱炭素社会実現への取組」や「SDGs・ポストSDGs」を掲げているのであれば、ここに「総合指標」としてそういう指標を入れるべきかなと思います。施策12「環境保全・創造」に設定している代表指標を表に出す方が私はいいと思います。あと、「未来の年表」のところですが、将来を見た中の5年10年ということであればこの「未来の年表」として表示されている部分は決めたものしか入れられないのであれば、「未来」という表現はやめた方がよいのではないかと思います。逆に現実的なところを放り込んでいくのであれば「将来の年表」など表現を変えたほうがよいと思います。

(委員)

2点です。まず1点目は、「環境保全・創造」に関する施策のところ改めて見てみると、気候変動への緩和策に関する視点は盛り込まれているんですけども、気候変動への適応策に関する観点は表立っては見えないなところがあるかと思います。2018年に「気候変動適応に関する法律」が施行されており、自治体における気候変動の適応に向けての計画策定等が義務化はされておりましたが、努力義務として課されているかと思うので、その観点も盛り込んでどうかというのが1点です。もう1点は、先ほどからマナーに関するやり取りがされておりまして、下町育ちの私からすると、なかなか皆様手厳しいなと思いつつ聞いていたのですが、仮に客観的に見てマナーの問題、治安の問題があるとして、

子どもや若者の逸脱が多いのかということではなくて、主に成人によってふるまわれている行為が多々指摘されているかと思しますので、教育的観点・方策というよりかはマナーを守ろうというような環境をどう作るのかという観点が大切になってくるのかなと思っております。最近では行動経済学などという形でまとめられて表現されているような諸取組の観点をどういう風にマナーに取り込んでいくのかということは検討されてもいいのかと思っております。ただし、アンケートでとっているのは主観ですので、みなさんのマナー意識が上がれば上がるほど常にそれは悪いものとして出てくるというか、基準がどんどん上がり続けていきますので、そういう意味ではそこをやりすぎると息苦しくなっていくというか、非常に高いレベルでのマナーみたいなものを目指していくということによる息苦しさというのも生みかねないので、そこはいい塩梅というのを注意しなければいけないという風に思いました。

(会長)

かなり時間も過ぎていきますので、議論は終了ということにさせていただきたいと思っております。そうしましたら事務局から今後のスケジュール等の連絡があるかと思っております。

(事務局)

本日も長時間ありがとうございました。本日見て頂きましたイメージですが、この部分について引き続きブラッシュアップを進めて参りたいと思っております。我々の予定としては次回12月に総会を開催させて頂き、もう一段ブラッシュアップした内容でお示しをさせて頂きたいと思っております。その間11月2日に市議会の総合計画等協議会がありますので、本日頂いた意見などを反映して、専門部会でご意見をいただきながら、協議会に出していくような形で進めていきたいと思っておりますので、ご了承いただきたいと思っております。今後のスケジュールですが、10月に専門部会を開催させていただきたく日程調整中でございます。また、11月2日に総合計画等協議会にて市議会でご報告し、12月にまた日程調整させて頂きますが総会で素案となるものをお示ししたいと思っております。

(会長)

12月中旬に次の総会という予定ですが、本日、大変多くの貴重なご意見いただきまして、これらをベースに専門部会や市議会でのご意見も踏まえて計画素案が示されるということだろうと思っております。今日も会議にご協力いただきましたが、素案策定にむけて、引き続きご協力を頂きますように宜しくお願い致します。多分言い残された事たくさんあるかと思しますので、事務局の方に直接何らかの形でご連絡いただければという風に思います。

以 上